

幸せを探しているあなたに

Poker face

運命の仮面を脱いでしまいましょう

渾身の演技が死につながったスターの悲劇的な人生映画よりさらに映画のようなことが行われるときがあります。本当の姿なのか、演技なのか、区別しにくいほど配役にはまってしまった俳優たちの中には、映画の中の運命をはらい落とすことができなくて、命を引き換えにしてしまう人々までいます。映画「ダークナイト」で完ぺきな悪役を演じたヒース・レジャーは、鳥肌が立つほど残忍非道なジョーカー役を通して、悪魔的な人間を描写して強烈な印象を残し、期待される俳優として注目されはじめたのですが、28歳の若さで世を去ってしまいました。一部では、彼がジョーカー役に過度に没入したせいで、その後遺症のために、結局、死にいたるまでなったという話が流れました。彼は2006年に出演した「キャンディ」という映画で麻薬中毒になって疲れきった人生を生きて破滅する役を演じたのですが、2年後に彼が薬品中毒で死ぬようになったのです。日本の人気ドラマだった「白い巨塔」の主人公である財前五郎役だった田宮二郎は、その年の12月に放送終了の前に突然に猟銃で自殺したのですが、ドラマと役に没入した影響が大きかったと言われたりもしました。自分の人生のアイデンティティーをなくしたふりをして、仮面をかぶった人格で生きていかなければならない演技者のペルソナ(persona)。ペルソナは、本来ギリシャの古代劇で俳優がかぶった仮面を称した心理学的な用語で、心理学者グスタフ・ユング(Carl Gustav Jung)は「人間は千個のペルソナ(仮面)を持っていて、状況によって適切なペルソナを使って関係を成し遂げて行く」と言いました。これは、大衆文化の多様なコードを通して自分の姿を失って仮面をかぶったまま生きていかなければならない現代人の姿と、たえず他人との比較を通して、自分の価値を天秤で量って、他人の視線と社会の基準に合わせて、自我よりは大衆のイメージに集中しながら、



ダークナイト

また別の自我で生きていく現代人の苦悩を語ってくれていると見ることができます。

運命の仮面を脱いでしまいましょう！ 神様のみことばである聖書は、人間がいつから自分をなくして、また別の自分の運命の仮面をかぶって生きようになったのか、その運命の仮面の背後に、どんな存在があるのかを明らかに知らせています。神様が世の中を創造されたとき、魚は水の中で、鳥は空中で、木は地中に根をおろして生きなければならない原理を持って創造されました。そのように、人間は神様のかたちとして、神様とともにいる霊的な存在として創造されたのです。しかし、最初の人間であるアダムとエバは、エデンの園でサタン(Satan)にだまされて、神様との約束を破って神様を離れ、サタンの手に捕まるようになりました。奴隷の家で生まれた子どもたちは、全部、奴隷になるように、このときから人間の運命は自分と関係ない呪いと災いに陥って、むなしくて不幸な生活を送るようになったのです。人間に運命の仮面をかぶらせて、不幸な生活を送るようにさせる張本人が、サタン、あるいは悪魔という目に見えない霊的な存在であると聖書は告発しています。このサタンは、今日も悪霊を働かせながら、人間が世の流れ(生年月日による運命、迷信、お祓い、占い...)に従うようにさせ、偶像崇拜、精神問題、肉体問題、家庭と子どもの問題、来世問題に陥らせ、不幸な人生を生きていくようにさせます。そして、もっともらしく自分の生活を包みながら、だまして生きていくように誘うのです。それなら、生年月日による運命の仮面を脱いでしまい、真の幸せ、真の自我を味わう道はないのでしょうか。神様に会う道、罪と呪いが解決される道、サタンの運命から抜け出る道となられたイエス・キリスト(Jesus Christ)、その方を信じればよいのです。

聖霊充滿の奥義を持った 重職者

福音の力をなくしたクリスチャン キリスト教が力を失っていった時代は暗くなり、人々はさまよって、占い、偶像などが起きるしかはない状況になっています。神様を信じる教会で答えを与えないので、世の中は難しくなるしかありません。

ところで、それよりもっと大きい問題があります。信徒さえも、福音の内容と聖霊の満たしについて、よく知らずにいるという事実です。それで、未信者のように肉的な御利益信仰に縛られて揺れていて、自分の経験や体験に依存して信仰生活をしている場合が多いのです。それでは、実際に迫ってくる霊的問題に勝つことはできません。教会にきて力を得るのではなく、試みにおちいって、仕事に苦しめられて、献金に負担を感じるようになります。結局、律法におちいって、あらゆる人間主義を使って、さまよう生活を送るようになるのです。

しかし、明らかなことは、聖霊は父、御子、御霊の三位が確かに一体なのですが他の位で、過去も今も働いておられ、これからも永遠に働かれるという事実です。それでは、どのように聖霊の満たしを体験することができるのでしょうか。私たちは足りないので、100%行うことも、完全に生きることもできません。しかし、信仰だけは完全に持つことができます。完全に神様の力を頼って、みことばを握って祈ればよいのです。これが聖霊に満たされる開始です。少しの時間を投資しても、直接的に、間接的に体験することができます。そして、少しだけ時間が過ぎれば、すでに来ている全体の答えを見るようになります。神様が私とともにおられる証拠を見るようになって、イエスがキリスト、神の国、教会と現場に聖霊に満たされる働きを見ながら、世界宣教の目が開かれるようになります。そうすれば、教会が復興しはじめ、現場で伝道の門が開かれ、皆さんの仕事と事業に成功の風が吹きはじめます。自然に、ロックフェラーのように礼拝が切実なものになり、個人の定刻礼拝を通して聖霊の満たしを求める祈りを続けるようになります。そうすれば、今日のみことば、今日の祈り、今日の伝道が出てくるしかありません。そうなると、普段に定刻、常時、深い祈りになり、世界福音化のための20の戦略が皆さんの事業、学業、職場にまで連結して、聖霊の満たしが持続するようになります。こうなると、皆さんはローマ16章の主役で立つことになるのです。これが聖霊の満たしで、真の成功です。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの五つの確信

- 1 **救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15-16、Iヨハネ 5:10-13)
- 2 **祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 **導きの確信**：神様は聖霊であなただの中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26-27、箴言 3:5-6)
- 4 **赦しの確信**：あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 **勝利の確信**：救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます。

神様の子どもの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされるようにして、私の現場に神の国が臨むようにしてください。

毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

決断、福音の祝福を味わおう！



神様と通じる人 神様と通じようとするなら、完全に福音中心の中にいなければなりません。福音中心が通じてこそ、神様がみことばを与えられ、聖霊の働きが起きるようになり、伝道中心にいるようになります。福音の中にいるということは、すでにすべての問題が終わって、私に來ている祝福がはじまっているということです。はじまりということは、続くということと同じです。「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる」と言われました。私がしていること、私がいる現場、たとえ問題がきたとしても、その問題の中に真の祝福と答え、幸せが含まれているという事実を信じなければなりません。福音は全てを生かせる開始です。全てのことの中で福音を味わうときごとに、大きい祝福が回復して、未来を見るようになります。福音の中に隠されている、はてしなく尽きることのない祝福を見つけて味わうのが祈りです。モーセが神様に日を数える知恵を求めて祈ったように、必ず個人の時刻表を分かなければなりません。そのとき、福音の中で他の人の時刻表を見るようになり、その中に含まれている祝福も見ようになります。そうすれば、この世に対する時刻表、時代に沿った時刻表、現場に隠してある弟子も見つけ出すことができるようになります。このとき、伝道者との出会いが与えられ、個人的に、教會的に、伝道専門チームが構成されるようになります。これが最高の聖霊の導きであり、神様が聖霊の満たしを与えられる理由になり、御座の祝福を味わう理由になります。正しい伝道の中には、すべての祝福がみな入っています。伝道をするということは、「災いか、祝福か。戦争か、祝福か」を選択することです。

個人の靈的問題、精神的な苦しみ、無能は、福音の中で契約を握って、黙想をはじめれば良いのです。黙想が一番重要なことが、神様との対話です。神様は、皆さんの良心にまず最初に答えられるでしょう。その次に、実際的に、正常に祈ればよいのです。朝でも夜でも、生活のリズムを作ることができる最も良い時間に、定刻の祈りをはじめ、深い祈りを通して聖霊の満たしを体験すればよいのです。

今から私の聖所を作りなさい 聖所で十字架の血の契約を握った日、暗やみから抜け出した事実、神様が私たちとともにいて働かれるという事実、私たちを最後まで導いて天国に導かれるという事実を忘れてはいけません。そして、個人的に祈りながら力を得られる聖所を持たなければなりません。エジプトと荒野には、もうこれ以上、希望がないため、ただ神様中心、みことば中心、礼拝中心に、私の生活を維持して祈る中で、カナンの地という未来の大きい証拠を握らなければなりません。私たちには、すでにすべての恨み、憎しみ、不満を越えて解決できる福音(救い)の愛、神様が答えてくださる愛、神様の愛を伝える伝道の愛があります。この愛の借りは、多ければ多いほど良いのです。今は、私だけでも福音を伝え、私だけでも行って教會の信徒に力を与え、私だけでも真の福音のために生きると決断すれば良いのです。荒野は信仰の試験場であるだけです。みことばを固く握って祈りを始める祝福があるように、イエス様の御名によって祝福します。

説教_柳光洙牧師,整理_チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

23日(月)伝道弟子がする最高の祈り(使徒5:24)
毎日すべての事件とできごと、人を通して「神様、なぜこのことをしなければなりませんか。神様の計画は何ですか」と尋ねて、一日一日の生活のスケジュールを持って、伝道を考えながら私に合う伝道を見つけて、一心と専心で持続するのが最高の祈りです。

24日(火)家庭での最高の祈り(使徒2:46~47)
家庭は神様の導きを受けて、教會の講壇のみことばが成就する現場で、私たちは宣言されたみことばを成就させる煽動者にならなければなりません。それで、私たちの家庭が、弟子と次世代に向かった道しるべになって、通じる現場にならなければなりません。

25日(水)神様のみことば(1ペテロ1:2)
初代教會が主張して握ったみことばの核はただ福音でした。そのみことばの中で未来を見て、毎日、今日の祈り、今日のみことば、今日の伝道が何かを見つけ出しました。このとき、神様が準備しておかれた隠された経済の祝福も見ようになります。

26日(木)祈りの福音(使徒1:1~8)
問題を持って祈りを始めて、答えを体験すれば、過去が土台で、今日起きることの中で、神様のみことばと未来に関するみことばを知ることになります。続けてインマヌエルを味わいながら、靈的な力ができて、聖霊の力が現れて答えの門、みことばの力、伝道と弟子の力、現場変化の力ができるようになります。

27日(金)迫害は祝福に変えられます(使徒5:17~32)

迫害は終わりではなくて、新しい開始です。福音を味わえば、迫害も祝福に変わるようになります。恐れを越えてより大きい答えの道になって、神様の時代的な計画を成し遂げるようになります。なぜなら、神様が迫害のあとに、より大きい計画を隠しておいて、待っておられるからです。

28日(土)殺してはならない(出20:13)

嫌う心を越えようとするなら、神様に会って、神様を愛してこそ、靈的な戦いで勝利できます。私を見つけて、自分を愛してこそ、全てのものの価値が分かって、自分が誰なのかを分かれば、相手が重要だということを知ることができます。そのときに、すべての人を主の愛で愛することができます。

週間メッセージ

産業宣教：神様と通じる時間
(エレミヤ 33:3)

伝道学：問題は祝福だ(ピリピ 4:6-7)

核心訓練：答えられる人だけが分かる祝福
(使徒 10:44-48)

聖日1部：旧約の聖所(出 25:1-7)

聖日2部：律法の完成(ローマ 13:8-10)

どこから はじまったのですか？



イラスト_ユン・スルギ

つい最近、運転免許をとった娘が、向こう見ずに車を運転して行く時、心配になるのは娘の運転の実力が信じられないからではなく、過去の経験から来る判断のためだ。

若い時、田舎で暮らしていて、ソウルに遊びに行くようになったが、親戚の家がたぶん東大門(トンデムン)があるチャンシンドンの近くだったと記憶している。バスに乗って歩き回って方向感覚を失って、いったいここがどこなのかわからないようになったら、すぐに出発点に戻って新しく道を始めればよいと考えて、決めた地点が東大門(トンデムン)だった。こういう過去の経験のゆえに、ひょっとして道に慣れていない子が、車に乗って行って道で苦労しないだろうかという考えが先に出てくるのだ。

しかし、この頃はジーピーエス(GPS-Global Positioning System 衛星位置確認システム)が装着されたナビゲーションがあるので、こういう心配は事実上は必要ないのだ。広々とした海の道を航海する船や、青空を悠々と飛んで行く飛行機だけではなく、このごろは、登山や一般のレジャーにも、自動車にも、この装置が活用されているので、目的地を見つけられるだけではなく、最小限に道に迷う心配はない。科学の発展を恐ろしいと思う。

人生にもこういう装置があるならば、どれくらい良いだろうかと考えてみる。時々、現実の苦しみのゆえに、自分を認めることができずに訪れるうつ病や、自らを虐待して、自殺する現実にたくさん接することになる。何かスタートが間違っただけを分けることは分かるのだが、それがはたしてどこから始まったかを知らないのだ。こういう基本的な質問に、簡単に答えを出すのが難しかったので、多くの哲学者が心血を注いで妙案を打ち出して、あれこれ作ったのだが、耳に聞きやすいだけであって、本当に問題にぶつかっている人には全く役に立たなかった。哲学は、自分の知的な欲求を満足させるのであって、どんな哲学も人生を救うことはできない。それで、賢い人は、歴史性がある哲学をあえて「無駄なだましごと」と言ったりもした。

かゆいところがある人は、まさにそこをかいてくれてこそ、楽になるように、苦しみの場にいる人には、本人が聞きぐるしくても、真の癒しのために、苦しみの原因を言ってあげなければならない。うまく行っていると感じる人はうまく行けば良いが、人生がよじれて、何かの解答が必要な人は、どこから私が始まったかを点検してみなければならない。前に私が道に迷った時、東大門(トンデムン)を探したように、基本的な場所に行ってこそ、行ける道を行くことができるのだ。

人間の起源は、神様の祝福で始まった。その道を持っている人は味わえば良いのだが、何か押さえられることがあって、誤った道を行って苦しんでいる人は、その神様の祝福がなぜ私にないかを見つけ出さなければならない。断言すれば、その苦しみの背後には、必ず人間をだまして、苦しみを与える原因であるサタンがいる。それがはじめの人アダムをだまして、その後のすべての人生をだまして、人類最大の詐欺で人類滅亡シナリオを進行している。ここにサタンの勢力を一気に打ち砕いて勝利を宣言した内容が福音だ。人間が滅びないように、今、滅びているとしても、その場から抜け出る道がイエスで、その奥義がキリストだ。キリストではじまらない人生は、道に迷っているのだから、はじめに戻ってやり直さなければならない。単純だがはっきりとキリストからはじまってこそ、真の幸せを味わえるのだ。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ